本學臨牀検査所に於ける梅毒反應 四萬例の統計的觀察

The Statistical Observations on Syphilitic Reactions of 40,000 Cases in
the Department of Clinical Examinations of the Nippon Medical College

日本醫科大學臨牀検査所

野 中 薫

Nonaka Kaoru

高 椋 卯 吉

Takamuku Ukita

宮 崎 繁

Miyazaki Sigeru

まえがき

今や結核対策と共に性病対策の重要性が強く叫ばれ、臨牀的には梅毒の豫防及び治療法の問題が論ぜられ、基礎的には梅毒反應術式の比較及び改良の研究が重要な課題となつて居る。

斯る時に當つて梅毒反應4萬例の統計を試みることも強ち無意味ではなからうと考へて茲に報告する次第である。

検査方法及び被検材料

昭和5年以來の20年間、本學臨牀検査所に於てはワツセルマン反應として獨逸國定法を採用して來たのであるが、昨年より厚生省の衛生検査指針に従つて北研法を施行して居る。

この間の取扱はれた検査件数は恐らく10萬例以上にも達するであらうが、不幸にも戦災に因つて昭和13年度より22年度に至る10年間の記録を焼失したので、茲では昭和5年度より10年度迄のワツセルマン氏反應（以下ワ反應と略記する）及びザツクスゲオルギー氏反應（以下ザ反應と略記する）とを併用した19,573例（第1表）と昭和11年度より12年度及び23年度より24年度に至るワ反應と村田反應とを併用した20,427例（第2表）の合計4萬例の統計に就いて報告する。

被検材料は本學附屬醫院及び一般開業醫家より梅毒被疑血液として送られたものである。

検査成績

(1)検査例の季節別分類

第1表及び第2表の通り季節別の統計は何れも春夏に検査數多の、秋冬に尠くなつて居る。

第1表 ワツセルマン反應とザツクス
ゲオルギー反應（昭和5—10）

	春 3—5	夏 6—8	秋 9—11	冬 12—2	合 計
季節別計	5.923	4.700	4.717	4.233	19.573
陽 性 數	1.305	988	928	844	4.065
百分率%	19.9	21.8	20.9	19.8	20.6
ワツセルマン (+)でザツクス (-)のもの	255	237	244	166	902
百分率%	3.9	4.2	5.1	5.2	4.6
ワツセルマン (-)でザツクス (+)のもの	337	513	372	343	1.585
百分率%	8.0	8.9	8.2	7.3	8.1

第2表 ワセルマン反應と村田反應
（昭和11—12.23—24）

	春 3—5	夏 6—8	秋 9—11	冬 12—2	合 計
季節別計	5.784	5.923	5.124	3.596	20.427
陽 性 數	1.329	1.230	1.031	737	4.327
百分率%	22.9	21.1	20.1	20.8	21.2
ワツセルマン (+)で村田 (-)のもの	98	110	135	75	418
百分率%	1.6	1.8	2.6	1.9	2.0
ワツセルマン (-)で村田 (+)のもの	188	165	192	178	723
百分率%	3.4	2.6	3.5	4.8	3.5

即ち春夏の取扱ひ合計例数は第1表では10623例、第2表では11707例であり、秋冬の例数は第1表では8950例、第2表では8720例である。

(2) 梅毒反應陽性率

ワ氏反應及び沈降反應が共に陽性のものは季節別に多少の動搖はあるが大體20%前後(19.8~22.9%)を示している。

(3) ワ反應と沈降反應の不一致

ワ反應陽性でザ反應陰性のものは平均4.6%(3.9~5.2%)を示し、ワ反應陽性で村田反應陰性のものは3%(1.6~2.6%)である。

一方ワ反應陰性でザ反應陽性のものは平均8.1%(7.3~8.9%)、ワ反應陰性で村田反應陽性のものは3.5%(2.6~4.8%)である。

要之、ワ反應陽性で沈降反應陰性の場合は沈降反應陽性でワ反應陰性の例数より尠く、又ザ反應より村田反應の方が遙かに良くワ反應に一致して居ることが判る。

更にワ反應と村田反應との關係を詳細に検討して觀たのが第3表である。即ち總數20,427例中ワ反應陽性で村田反應陰性のものが418例(0.02%)あり、村田反應陽性でワ反應陰性のものが723例(0.035%)ある。

第3表 ワツセルマン反應と村田反應成績内譯表

ワ氏反應 村田反應	卅	卅	+	—	合計
卅	1,677	164	47	28	1,916
卅	331	392	177	47	(723) 947
+	223	315	1,001	648	2,187
—	37	36	345	14,959	15,377
	(418)				
計	2,268	907	1,570	15,682	20,427

總括

(1) 本學臨牀検査所に於ける梅毒被疑患者血清の依頼検査数を四季別に觀ると春夏に多く、秋冬に尠い。

(2) 梅毒反應陽性率は四季を通じて大體20%前後を示して居る。

(3) ワツセルマン反應と沈降反應との陽性率を比較して觀ると後者の方が陽性率高く、而も沈降反應ではザツクスゲオルギー反應より村田反應の方がワツセルマン反應と良く一致して居る。

八田教授の御校閲を感謝し、養茂講師の御指導御援助を深謝す。

文 献

日本醫師會雜誌	22 卷, 2 號, 27 頁
"	24 卷, 4 號, 313 頁
"	24 卷, 6 號, 500 頁
"	25 卷, 2 號, 145 頁